

ボランティア活動報告2017

大学間連携 夏の合同ボランティア学習会②

「宮城&兵庫 学生ボランティア研修&交流会」

8月25日（金）尚絅学院大学多目的ホールにて、「宮城×兵庫学生ボランティア研修&交流会」が行われました。このプログラムには兵庫・宮城だけでなく、関東の大学の学生も参加しました。阪神淡路大震災と東日本大震災について改めて学び直し、「現地活動で学んだこと」「自分たちがこれからできること、したいこと」などを議論しました。

さらにプログラム内では、復興庁の方の講義や、閉上で被災した語り部さんの講話、宮城・兵庫の各大学の活動報告を通し、「阪神・淡路大震災、東日本大震災の経験と教訓を踏まえた学生ミーティング」を行いました。また、「学生ミーティング」として、ひょうごボランティアリープラザ、神戸親和女子大学、神戸女子大学の方の講話をうかがいました。その後、各グループで「東日本大震災現地活動で学んだこと」をテーマに、ひとりひとり付箋に書き、模造紙に貼って議論しました。また、グループ内の発表だけでなく、他グループの意見も聞きながら交流を深めました。

では、学生ミーティングで出た意見をご紹介します！

「東日本大震災現地活動で学んだこと」

- 人との関係づくりは考えたり悩んだりするより、まず関わってみること！
- 寄り添うことの大切さを改めて感じた。
- なんでもしてあげることがボランティアではない。住民さんの自立を支えることも大切なボランティア。
- いるだけで、会話しているだけで支援になっているということ。
- 自分たちにできることとできないことがあり、出来る範囲での支援をしていく。
- いろんな形のボランティアがあるということ。

「自分たちがこれからできること、したいこと」

- 東北の良さを、学生だからこそできるやり方で、たくさんの人に伝えていきたい。
- 「ボランティア」という言葉に頼らない交流をしていきたい。
- 被災地の情報を地元から全国に発信していきたい。
- 「ボランティア」をもっと身近なものにしたい。
- 行政だけでは補えない部分を私たちがサポートする。
- 忘れないこと、伝えること。
- とにかく経験したい！
- もっと色々な立場の方から話を聞きたい。
- 繋がりを続ける。

活動報告に関して質問しあう様子も
見られました



学生ミーティングではたくさんの意見
が出ました！みんな真剣な表情！！